

クリーン四国

No.1273
2026年
4月号

令和8年度入庁式

【詳細は2頁】



令和8年度 新規採用者

目次

令和8年度入庁式	2
国有林モニター会議を開催	3
令和7年度治山・林道工事コンクール表彰式の開催	4
企画展「未来へつなぐ森林の力」	6
香美市の山々たんね歩記をテーマに森林環境教育を実施	7
架線集造材の現地見学会を実施	8
林地残材の利活用をテーマに勉強会	9
令和8年度南予森林アカデミー入校式の開催	10
愛媛県南予及び高知県西部の小学校5校で森林環境教育を実施	11
環境活動見本市in黒潮町に「かんたん木工教室」を出展	12
新任者略歴紹介	13



四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

令和8年度入庁式

〈局総務課〉

4月1日、令和8年度四国森林管理局新規採用者18名の入庁式を局議室において行いました。

田中四国森林管理局長から、新規採用者に辞令が手渡され、入庁者を代表して愛媛森林管理署の近本捺姫さんが宣誓を行いました。



局長からは、入庁した18名に、「新規採用者の皆さん、入庁おめでとうございます。先程、新規採用職員を代表して宣誓がありました。この宣誓は決して形だけのものではありません。

宣誓文には、国家公務員として働く上で一番大切な考え方が込められています。まず、国民全体の奉仕者として公共の利益のために働くこと。そして、日本国憲法や法令、上司の職務上の命令をしっかりと守ること。さらに不偏不党かつ公正の姿勢で職務を行うこと。この宣誓文の内容は国家公務員として採用された時から退職するまで大切にしていけるべき原則です。どうか、この宣誓の気持ちを忘れないでください。

さて、私自身が社会人になったときのことを振り返ると、学生の頃は同級生など近い年代の方々と接することが多かったのに対し、職場では、上司の方々など、幅広い年代の方々が多いことなど、慣れないことが多く、毎日仕事を覚え、上司や仲間の名前を覚え、職場に慣れていくことに一生懸命だったことを思い出します。また、皆さんの中には、社会人の経験を

経て、入局される方もおられますが、職場の雰囲気や、法令、通知等に基づく行政ということで、これまでのご経験とは違う面もあると思います。

これから皆さんが、それぞれの職場で仕事に取り組む中で分からないこと、不安なこともあると思いますが、職員が優しく、ときには厳しくサポートしますから、安心してください。

今日の初心を忘れることなく、国家公務員、林野庁職員としての誇りを持ってのびのびと力を発揮してくれることを期待しています。」と訓示がありました。

これから、林野庁の職員として一緒に勤務することになりますので、皆様よろしくお願います。

表紙写真前列右側から

山本 庸司 (やまもと ようじ)	香川所
鈴木 諒 (すずき りょう)	資源活用課
神前 黎 (かんだき れい)	徳島署
和田 優志 (わだ ゆうし)	計画課
宮澤 小春 (みやざわ こはる)	森林整備課
柳田有希子 (やなぎだ ゆきこ)	愛媛署
近本 捺姫 (ちかもと なつき)	愛媛署
田中晋太郎 局長	
宇波 武尊 (うなみ ほたか)	安芸署
渡部 文貴 (わたなべ ふみたか)	四万十署
宮崎孝太郎 (みやざき こうたろう)	安芸署
沖田瞬乃介 (おきた しゅんのすけ)	嶺北署
山中 涼央 (やまなか りょお)	四万十署
小川 柊弥 (おがわ しゅうや)	高知中部署

後列右側から

近藤 昭夫 森林整備部長	
坂本 成美 (さかもと なるみ)	経理課
森田 幸美 (もりた ともみ)	森林整備課
池田 孝 (いけだ たかし)	技術普及課
山本 隆史 (やまもと たかし)	計画課
細川 美花 (ほそかわ みか)	総務課
益田 健太 業務管理官	
小川 和幸 総務課長	

国有林モニター会議を開催

〈局企画調整課〉

林野庁では、幅広い国民の皆様にも国有林についての理解を深めていただくとともに、意見交換など対話型の取組を通じてご意見やご要望を頂き、それらを国有林の管理経営に役立てることにより、開かれた「国民の森林（もり）」にふさわしい管理経営を行っていくことを目的として、「国有林モニター制度」を設けています。

四国森林管理局では、34名の方に令和6～7年度の2年間の任期とする国有林モニターを依頼していました。

2月27日、嶺北森林管理署において、国有林モニター会議を開催し、参加いただいた11名の国有林モニターの皆様から、国有林や森林・林業行政に関するご意見・ご質問、2年間国有林モニターとして活動した感想をお伺いしました。

1. 高知おおとよ製材株式会社の見学

国有林モニター会議を開催する前に、国有林などの森林から搬出された木材がどのように加工・利用されていくかを知っていただくために、高知県大豊町にある高知おおとよ製材株式会社を訪れました。

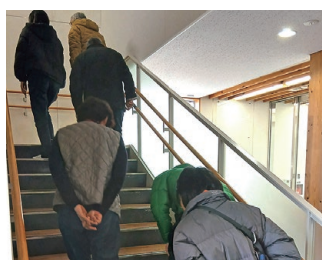
原木の受入れから製材、乾燥、仕上げ加工に至るまでの一連の工程を、ご説明いただきながら見学しました。見学中は、原木の価格や機械の稼働率などについて、活発な質疑が交わされました。また、会社からは、資源はかんなくずやおがくずまで余すところなく活用していることや、海外を視野に入れた事業展望を持っていることなどのお話を伺うことができました。



工場見学の様子

2. 嶺北森林管理署紹介

次に、嶺北森林管理署に移動し、署の事業概要及び国の庁舎整備で初めて本格的にCLTパネル工法を採用した庁舎を紹介しました。建設の過程について署長から資料により説明した後、実際に庁舎内を案内し、廊下壁面のCLTパネルの表し部分や旧庁舎の床材（サクラ材）を再利用した床などを見学していただきました。参加者からは随所に木材が使用された庁舎に関心が示されたほか、「（旧庁舎の床材を再利用したことについて）木材は繰り返し使える点が素晴らしい」といった感想を頂きました。



床板を見ている様子



庁舎の廊下を見学している様子

3. 国有林モニター会議

まず、企画調整課から2年間のモニター活動を振り返り、その後モニターの皆様お一人お一人からご意見等をお伺いしました。

「国有林が何のために存在しているのかや、国有林の取組を多くの方に知ってもらうため、もっと情報発信が必要である」「特に若い世代に知ってもらいたい」「民間では手の届かない研究開発の分野に力を入れてもらいたい」「モニター活動で現場を見学させてもらい、大学の授業だけでは分からなかったことを知ることができたのでよかった」など、様々なご意見・ご感想を頂きました。

頂いたご意見等は林野庁内・森林管理局内で広く共有し、今後の国有林の管理経営や国有林モニター活動に活かしていきたいと思えます。



会議の様子

令和7年度治山・林道工事コンクール表彰式の開催

〈局治山課・森林整備課〉

3月6日、令和7年度四国森林管理局治山・林道工事コンクールの表彰式を行いました。

本コンクールでは、令和6年度に完成した森林土木工事を対象に、事業効果が顕著であり、工事内容が良好で他の模範となると認められるものについて書類・現地審査を行いました。

その結果、特に優秀なものとして、治山工事2件、林道工事2件の4件が林野庁長官賞を、治山工事3件、林道工事5件の8件が、四国森林管理局長賞を受賞されました。

なお、林野庁長官賞の表彰式は、2月17日に林野庁において行われました。

受賞者は次のとおりです。



林野庁長官賞 (敬称略)

● 祖谷川地区麦生土(下)地すべり防止工事

《徳島署発注》

(株)山全

代表取締役 牛尾 正治



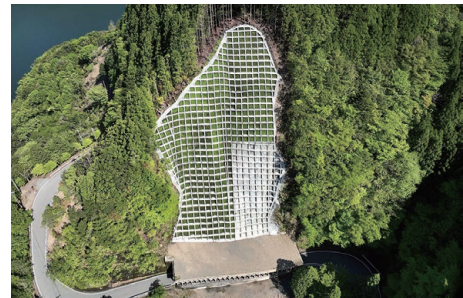
祖谷川地区麦生土(下)地すべり防止工事 (明許)

● 明善山(2087)復旧治山工事

《安芸署発注》

湯浅建設(株)

代表取締役社長 湯浅 雅喜



明善山(2087)復旧治山工事 (明許)

● 堂ヶ森林業専用道新設工事

《四万十署発注》

(有)松元建設

代表取締役 松元 秀人



堂ヶ森林業専用道新設工事 (明許)

● 西川林道災害復旧工事

《安芸署発注》

魚梁瀬産業(有)

代表取締役 五百蔵 文太



西川林道災害復旧工事 (明許)

工事表彰

- 兼広(11)復旧治山工事
《香川所発注》
大字建設(株)
代表取締役 大字 徹
- 吉野川上流地区粟山復旧治山工事
《嶺北署発注》
(株)山全
代表取締役 牛尾 正治
- 奈半利川地区小島(上)復旧治山工事
《安芸署発注》
(有)金本組
代表取締役 金本 太
- 笹谷林道20支線改良工事
《四国局発注》
(有)上西組
代表取締役 上西 光男
- 西谷林道改良工事
《四万十署発注》
(有)黒尊建設
代表取締役 石川 香里
- 新道山林道災害復旧工事
《四万十署発注》
(有)三浦建設
代表取締役 三浦 新平
- 十八川林道災害復旧工事
《四万十署発注》
(株)田邊建設
代表取締役 田邊 一也
- 長滝林業専用道新設工事
《安芸署発注》
湯浅建設(株)
代表取締役社長 湯浅 雅喜

技術者表彰

- 祖谷川地区麦生土(下)地すべり防止工事
現場代理人・主任技術者
佐藤 公智((株)山全)
監督職員 川口 慎弥(徳島署)
- 明善山(2087)復旧治山工事
現場代理人 乾 すみれ
主任技術者 寺尾 安弘
(湯浅建設(株))
監督職員 浜田 淳史(安芸署)
- 堂ヶ森林業専用道新設工事
現場代理人・主任技術者
山本 修((有)松元建設)
監督職員 山中 佑也(四万十署)
- 西川林道災害復旧工事
現場代理人 渡辺 素巳
主任技術者 伊藤 裕隆
(魚梁瀬産業(有))
監督職員 芦原 雅人(安芸署)

今回、受賞された皆様の功績をたたえ、長年の努力に敬意を表するとともに、今後もより一層模範となる工事を期待いたします。

四国森林管理局では、全国的に多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、治山施設を整備し土砂流出の防止や森林の保全に取り組んでいます。

また、健全な森林の維持増進のために、林道などの路網整備にも努めているところであり、引き続き安全な国土づくりに取り組んでまいります。



企画展「未来へつなぐ森林の力」

～森林の機能・役割の理解促進のための～

〈局技術普及課〉

当局では、3月18日から4月7日までの期間、オーテピア高知図書館のスペースをお借りし、企画展「未来へつなぐ森林の力」～森林の機能・役割の理解促進のための～を開催し、多くの皆さまにご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

本企画展では、森林が持つ多様な機能や魅力について、パネル展示を中心にさまざまな形で紹介しました。森林が果たす水源涵養や土砂災害防止といった大切な役割をはじめ、木材の活用、生物多様性など、日常生活の中では意識する機会の少ない「森林の力」を分かりやすく伝える内容とし、多くの来場者が足を止め、熱心にご覧になっていました。



本の集約展示
「森林の本だな」の様子



パネル展示の様子

また、図書館内には森林に関する書籍を集めた「森林の本だな」を設置いただき、子どもから大人まで楽しめる幅広いテーマの図書を紹介しました。

期間中、多くの方に本を手にとっていただき、展示終了時には蔵書が少なくなるほどの反響がありました。本を通して森林への関心が広がり、その思いが読者へと受け継がれていくようで嬉しく感じました。あわせて、来場者に自由にお持ち帰りいただけるよう

意した木目調の手作りしおりも、連日好評を博しました。

さらに、関連イベントとして「森の音楽会 ～ヤナセスギの響き～」を開催し、国有林の「ヤナセスギ」を用いて製作されたヴァイオリンによる演奏をお届けしました。西洋製のヴァイオリンとの弾き比べでは、ヤナセスギのヴァイオリンが持つ、明るくやわらかな音色の特徴を感じ取ることができました。ピアノとともに織りなす豊かな響きを楽しみながら、音楽を通じて「木が持つ豊かさ」を体感していただける演奏会となりました。



演奏会冒頭での
局長あいさつ



「森の音楽会～ヤナセスギの響き～」の様子

本企画展は、森林をより身近に感じていただく機会となり、森林の大切さや、その恵みを未来へつないでいくことについて、改めて考えるきっかけとなったと感じています。

ご来場・ご参加くださった皆さま、ならびに企画にご協力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

四国森林管理局では、今後も森林の機能・役割に関する理解促進に向け、継続的に取り組んでまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

香美市の山々たんね歩記をテーマに 森林環境教育を実施

〈高知中部森林管理署〉

2月20日、高知市文化プラザかるぼーとにおいて、高知県高坂学園生涯大学の受講者約90名を対象に、森林環境教育の一環として「香美市の山々たんね歩記～ゆっくり歩けば見えてくる～」と題した講演を実施しました。講師は高知中部森林管理署職員の森下森林技術指導官が努めました。



1. 国有林の役割と森林管理署の業務紹介

まず、国有林が果たす役割や森林管理署の主な業務について紹介しました。ヘリコプター空撮による香美市の雄大な山々の写真を示しながら、

- 木材の生産事業
- 造林事業（苗木を植える取組）
- 山の巡視（パトロール）
- 獣害対策
- 大型ドローンや高性能林業機械を活用したICT化の取組

など、多岐にわたる業務内容を説明しました。

また、獣害対策の分野での話では、シカの採食によって土砂流出が発生している状況や、捕獲事業などの対策を進めている現状を紹介し、参加者は興味深く耳を傾けていました。

2. 香美市の代表的な山々と“たんね歩記”

続いて“たんね歩記”になぞらえながら、高知中部

署管内の代表的な山々について紹介しました。

山にまつわる伝承やおすすめスポットを取り上げ、配布した「香美市に関するたんね歩記」を手に、話にうなずきながら聞く参加者の姿も見られました。



3. 山の自然のしくみ（水と土の話）

次に、山の自然に関する話をしました。分解者によって山の土が作られ、水をためる力を持ち、たまった水が集まり物部川となり、海へ流れていく。だからこそ山を守ることは水を守ることにつながるという話では、参加者から感嘆の声が上がっていました。

4. 山で出会った動物たち

最後に、山で出会った動物について紹介しました。カモシカの子供やうり坊などの写真と非常にユーモラスなエピソードの話には会場から笑い声が出る場面も見られました。

まとめ

今後、今回のような機会を活かして普及啓発活動に積極的に協力し、老若男女問わず自然に対して興味を持ち、実際に山や自然に足を運ぶきっかけづくりに貢献できるよう努めていきたいと思っております。

架線集造材の現地見学会を実施

〈安芸森林管理署〉

2月27日、安芸森林管理署管内の大谷山国有林において株式会社徳信様のご協力の下、本格架線による集造材の現地見学会を開催しました。当日は、現場作業員の方々が日頃行われている集造材作業の様子を、株式会社徳信 山林部部長 杉本様のご説明を伺いながら見学しました。

はじめに、エンドレスタイラー方式の架線集材設備によって伐倒木が運ばれる様子を見学しました。エンドレスタイラー方式は、先柱と元柱の間を輪のように引き回したエンドスラインと呼ばれる架線に搬器をつなぎ、集材機に搭載されたエンドレスドラムで駆動することによって、上げ荷や下げ荷を問わず、双方向に機械運行が可能な方式です。加えて、横取り範囲が広いことから、地形を選ばず効率的な集材が可能です。現地見学の際にも、伐倒された立木が急峻な谷を跨いで、土場へスムーズに運ばれる様子を実際に目にすることができました。



集材架線の構造、
運動について杉本部長の
お話を伺う職員

杉本部長との質疑応答の中では、集材架線のダイナミックな運動に対する、作業員の精密な技術についての説明がありました。運搬のため伐倒木を搬器に括り付ける作業員は、重量の基準となる立木を一本定め、それとの相対化によってほかの伐倒木の重量を目測することが可能だそうです。こうした技術は、搬出可能な伐倒木の本数やサイズを的確に判断して搬器に括り付けるということを可能にしています。機器等を用いず架線の耐荷重を考慮する技術について伺ったことで、スムーズな集材は架線の方式のみによって可能になっているのではなく、作業員の方々の経験によっても下支えされている、そんな考

えを抱きました。

また、架線集材に際して安全を確保するために現場で行われている工夫についても聞くことができました。架線集材の現場では作業員同士が離れているため無線での連絡が行われています。徳信様の現場では、聞き間違いや聞き逃しによる判断の誤りを減らすために、「巻いて」「入れて」「下ろして」「引き込んで」といった合図を動かす作業索や工程によって使い分け、似通った響きの語彙を無線連絡に用いないようにしているそうです。現場の集材機の音を実際に間近で聞いたところ、人の声を容易にかき消すような振動音が断続的に響いていました。そのような轟音が響く集材機付近で声を聞き取ることは困難だということを感じ、安全確保のために工夫を設ける意図を深く理解することができました。



集材架線によって
伐倒木が運ばれる様子

なお、徳信様には、今回の現地見学会に先立ちご厚意で、架線集材を念頭においた立木の伐倒作業や集材機の据え付け等の集材架線設営作業について、それぞれ見学の機会を設けていただきました。計3回にわたりご協力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。



集材機の運転に係る
説明を受ける職員

伐倒から集造材に至る一連の作業を現場で見学したことで、机上で学んできた架線集材への理解が一層深まり、複雑な架線集造材の構造を把握する大きな契機となりました。今回の現場見学を通じて得られた知見を、今後の業務にしっかりと生かしてまいります。

林地残材の利活用をテーマに勉強会 ～大豊町で事業体・嶺北署職員ら20名が参加～

〈嶺北森林管理署〉

2月25日、高知県長岡郡大豊町の民有林内に所在する有限会社川井木材の作業現場において、四国国有林森林整備協議会主催の「林地残材や低質材等のチップ処理及び販売に関する勉強会」が開催されました。高知県内の事業体をはじめとする20名（うち嶺北森林管理署職員7名）が参加し、林地残材の効率的な利活用に向けた実務を学びました。

国有林野事業のうち、生産事業等で木を伐って運び出した後、枝や細い木が事業地に集中してそのまま残ってしまうことがあります。林地残材と呼ばれるこれらが存置されることで、一部で植栽ができなくなるほか、1箇所存置された枝条の流出が懸念されています。

今回の勉強会では、枝条等の林地残材（低質材）を活用したチップの製造方法、販売状況及び収益構造について、有限会社川井木材 代表取締役 川井博貴様から説明がありました。当日紹介があった事業はタワーヤーダーを用いた集材方法で、枝条を1か所に集めやすいという利点があり、より効率的に集積し、チップ製造用の土場へと運搬します。集荷・加工・販売に至る一連の流れが紹介されましたが、特にドイツ製の一軸高速回転破碎機を用いて、枝条を細かく碎き、ピンチップと呼ばれる形に加工する方法が印象的でした。一方短尺の丸太等の少し大きめの林地残材については作業効率や機械の耐久性が枝条に比べ落ちるため、分けて集積し、切削チップを製造できる箇所へ売るとのことでした。

この機械は、月250トンの生産能力を有しており、

ピンチップと切削チップの特徴と単価差、現場から集積所までの距離条件や運搬条件と収益性の関係、チップの燃料消費量と費用対効果等について、実務に基づく具体的な説明がありました。

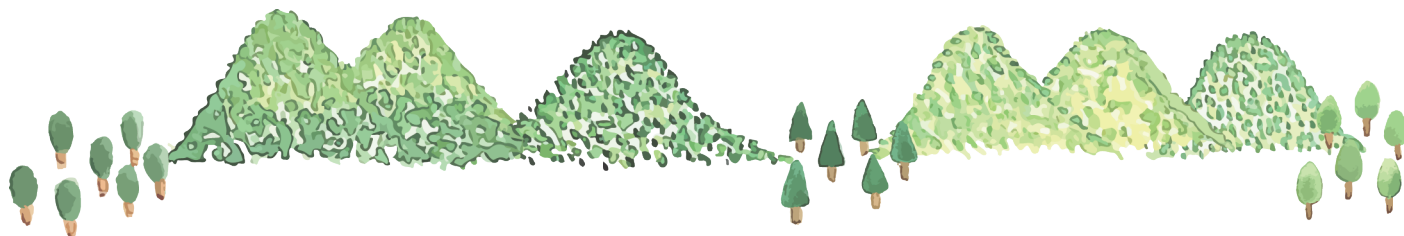


一軸高速回転破碎機



枝条等

今回の勉強会を通じて、従来存置されることが多かった林地残材を集めて、チップに加工することで、付加価値を見出し、外部需要へ供給できる可能性があることを学びました。今後の事業実行において参考にしていきたいと思えます。



令和8年度南予森林アカデミー入校式の開催

〈愛媛森林管理署〉

4月9日、令和8年度南予森林アカデミー入校式が、(一社)南予森林管理推進センター(北宇和郡鬼北町)で開催されました。はじめにアカデミーの運営者である同センター長(宇和島市長)より入校生への地域林業の支えになることへの期待を込めた式辞があり、愛媛森林管理署長は、「5か月若しくは1年もの研修を、事故やケガ無く修了され、現場第一線でご活躍されることを祈念します」と挨拶しました。式には同センター理事である鬼北町長、松野町長も出席され、将来地元で林業に従事してくれる入校生を温かい目で見守られていました。

5期生として入校した研修生は6名で、その内訳は5か月短期研修4名、1年間長期研修2名、出身地で見ると宇和島市2名、鬼北町1名、松野町2名、東京都から1名となっています。昨年との倍の人数であり、活気あふれる研修となることが期待されます。

また、令和4年に開校して以降初の女性研修生

(2名)が入校し、記念のヘルメットを受け取り、気持ちも新たに研修に臨む姿勢がみられ、研修生代表宣誓の読み上げも任されていました。

全国的には女性林業従事者の数も年々増加している中、今次研修を修了された方が、後に続く女性研修生の模範や目標になることが一層期待されます。

当署は、昨年度南予森林アカデミーの研修生に対し、航空法・ドローン操作方法、手動や自動での飛行操作をはじめ、保育間伐【活用型】作業現場での生産事業、ドローン空撮画像のオルソ化の説明、地上型3Dレーザを用いた立木調査実習及びその計測結果の解析、コンテナ苗の植付け実習等を実施しています。本年度も昨年同様国有林野のフィールド提供や講師派遣を行い、南予地域の林業の新たな担い手の育成・確保に協力することとしています。なお、昨年度の研修生3名は、全員森林・林業分野に進学または就業されています。



研修生代表による宣誓



入校生(ヘルメットを持つ6名)



愛媛県南予及び高知県西部の 小学校5校で森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川森林ふれあい推進センターでは、二月月に松野西小学校4年生、中村小学校1年生、山奈小学校3年生、大月小学校2年生、上川口小学校1・2年生を対象に森林環境教育を実施しました。中村小学校では一年生47名を対象としたため、四万十川森林管理署の職員2名に応援参加いただきました。

松野西小学校：四年生の炭焼き体験

年間を通じて行ってきた学習の最終回として、木片や木の実を使った炭焼き体験を実施しました。児童たちは炭の種類別に、特性やその活用方法を学んだ後、校庭にてセンター職員から手順や注意点を聞き、実際にブリキ缶の中に各自用意した木片や木の実等を入れ、隙間にモミ殻を詰めて、ドラム缶の焚火へ投入しました。



炭焼き体験の様子

炭になるまでの待ち時間は、白炭や黒炭、オガ炭、竹炭などの炭の実物を見て各々の特徴を観察しました。白炭や黒炭を万力に挟んで順番にノコギリで切断すると、児童によっては、硬い白炭を1人では切断できず、交代しながら声を掛け合い、協力して切断することで硬さや断面の違いを学習しました。

炭焼き実験開始から約35分経過した後、ドラム缶から取り出したブリキ缶を冷ましてゆっくり開け、化石発掘の様にモミ殻をよけると、木の実、折り紙、木片などが「炭」になっていて実験は成功しました。

また、焚火の中にブリキ缶と一緒にアルミホイルに包んだサツマイモも投入していましたが、それはおいしい焼き芋になっていました。

森林教室

中村小学校では、樹木が春の芽吹きに備えて前の年から冬芽（葉っぱと花の赤ちゃん）を準備している様子をえがいた絵本（ふゆめがっしょうだん）を学んでもらいました。

さらに、樹木に関心をもってもらうため、校庭には

たくさんの樹木があり、四季により葉っぱが変化し花が咲きタネが飛ぶこと、虫などが生息していること、花の蜜や虫、木の実などを求めているいろいろな鳥たちもやって来ることを説明し、そうしたことを通学路や運動場から日々観察してみるよう紹介しました。

また、中村小学校・大月小学校では、紙芝居教材「山（森林）からの贈り物」を使用した森林の役割について対話形式で学びました。

上川口小学校では、地域の講師「うみのこども」の中谷みどりさんから、「森林のやさしさについて」と題して、森は空気をきれいにする、

水をつくる、生き物のすみかとなる、災害を防ぐなどの森林のはたらきについてやさしく問いかけながらわかりやすく話をされ、児童たちも素直に元気よく発言して応えていました。



森林のやさしさをしろうのお話

木工教室

中村小学校・大月小学校では、最初にヒノキが家を建てる時の主な材料として使われていることを説明し、板や角材の素材の香りや肌触りの良さを感じてもらいました。

材に触れて木工体験を行いました。山奈小学校では木材の特性について学び、その後、お雛様や五月人形の木工制作を実施しました。上川口小学校では、生き物をテーマにした木製壁掛けづくりに取り組み、児童たちが個性豊かな作品を完成させました。



お雛様作りの様子



木製壁掛けできたよ

まとめ

今回の森林環境教育が児童にとって楽しい思い出となり、作品を通じて自然や木材の良さを感じてもらえることを願っています。当センターでは今後も学校の要請に応じた出前講座を通じ、森林への理解促進と木育の推進に取り組んでいきます。

環境活動見本市 in 黒潮町に「かんたん木工教室」を出展

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

2月14日、幡多郡黒潮町入野・土佐西南大規模公園内のふるさと総合センターにおいて、『見て、触れて、遊んで、学べる 環境活動見本市 幡多のエコ大集合2026in黒潮町』が2年ぶりに開催されました。

主催者である「高知県環境活動支援センターえこらぼ」（特定非営利活動法人 環境の杜こうちが運営）から今回も依頼を受け、当センターは今年も「かんたん木工教室」のブースを出展しました。

【かんたん木工教室】

四万十森林管理署の増原署長及び職員2名の協力を得て、「身近な木づかいでSDGs」をテーマに、幼児・保育園児、小学生など約50組に木工体験を実施しました。ヒノキのムク板や角材を使ったお雛様、五月人形の置物づくりと、自然木の輪切りや枝を活用した「木いホルダー作り」を木の香りや温かみに触れながら楽しんでもらいました。



【その他のイベント】

会場では、クジラクイズ、ぼうさい植物紹介、アロマ芳香剤づくり、ぱたぱたツル工作、ミニ石積み体験、高知おもちゃ病院しまんと診療所による無料おもちゃ診療、ウミガメクイズや貝殻クラフト、海ごみ

アート、小学生による環境絵日記作品展、SDGsゲーム、ダンボール巨大迷路、防災植物の試食体験会など、多彩なプログラムやワークショップの出店がありました。

また、屋外では入野松原や砂浜、河口の野鳥観察会も行われ、親子連れなどで賑わいました。



ブースの様子



【おわりに】

参加者からは「木の肌触りや香りが良い」「お雛様がとても素敵」といった声が多く聞かれました。

主催者発表で約250名が来場した本イベントを通じ、森林の大切さや木材・林業の魅力、そして四国森林管理局の役割を広く伝えることができた一日となりました。

※来場者の写真は、広報誌掲載の許可確認後に撮影しています。

新任者略歴紹介



総務企画部長

山本 満久

- 昭和61年4月 熊本営林局水保営林署事業課採用
- 令和6年4月 関東森林管理局下越森林管理署長
- 令和8年4月 現職



計画保全部長

徳留 善幸

- 平成8年4月 林野庁指導部基盤整備課採用
- 令和6年4月 林野庁森林整備部治山課山地災害対策室長
- 令和8年4月 現職



経理課長

岡部 光明

- 昭和61年4月 高知営林局川崎営林署事業課採用
- 令和7年4月 四国森林管理局森林整備部企画官(自然再生担当)
- 令和8年4月 現職



計画課長

見市 貴司

- 平成15年4月 東北森林管理局計画第一部指導普及課採用
- 令和6年4月 中部森林管理局東濃森林管理署長
- 令和8年4月 現職



森林整備課長

清岡 英章

- 昭和61年4月 高知営林局高知営林署事業課採用
- 令和6年4月 四国森林管理局計画保全部専門官(災害調整担当)
- 令和8年4月 現職



資源活用課長

渡邊 憲治

- 昭和63年4月 高知営林局川崎営林署事業課採用
- 令和6年4月 四国森林管理局四万十森林管理署次長
- 令和8年4月 現職



技術普及課長

宮崎 隆太

- 平成6年4月 熊本営林局都城営林署業務課採用
- 令和6年4月 四国森林管理局愛媛森林管理署総括事務管理官
- 令和8年4月 現職



香川森林管理事務所長

安藤 暁子

- 平成8年4月 高知営林局総務部経理課採用
- 令和6年4月 林野庁国有林野部経営企画課課長補佐(事務管理班担当)
- 令和8年4月 現職



四万十森林管理署長

尾木 浩典

- 平成2年4月 高知営林局安芸営林署経営課採用
- 令和6年4月 林野庁国有林野部業務課企画官(災害対策担当)(奥能登地区山地災害復旧対策室)
- 令和8年4月 現職



高知中部森林管理署長

森田 裕一

- 平成2年4月 高知営林局奈半利営林署事業課採用
- 令和5年4月 四国森林管理局安芸森林管理署次長
- 令和8年4月 現職



安芸森林管理署長

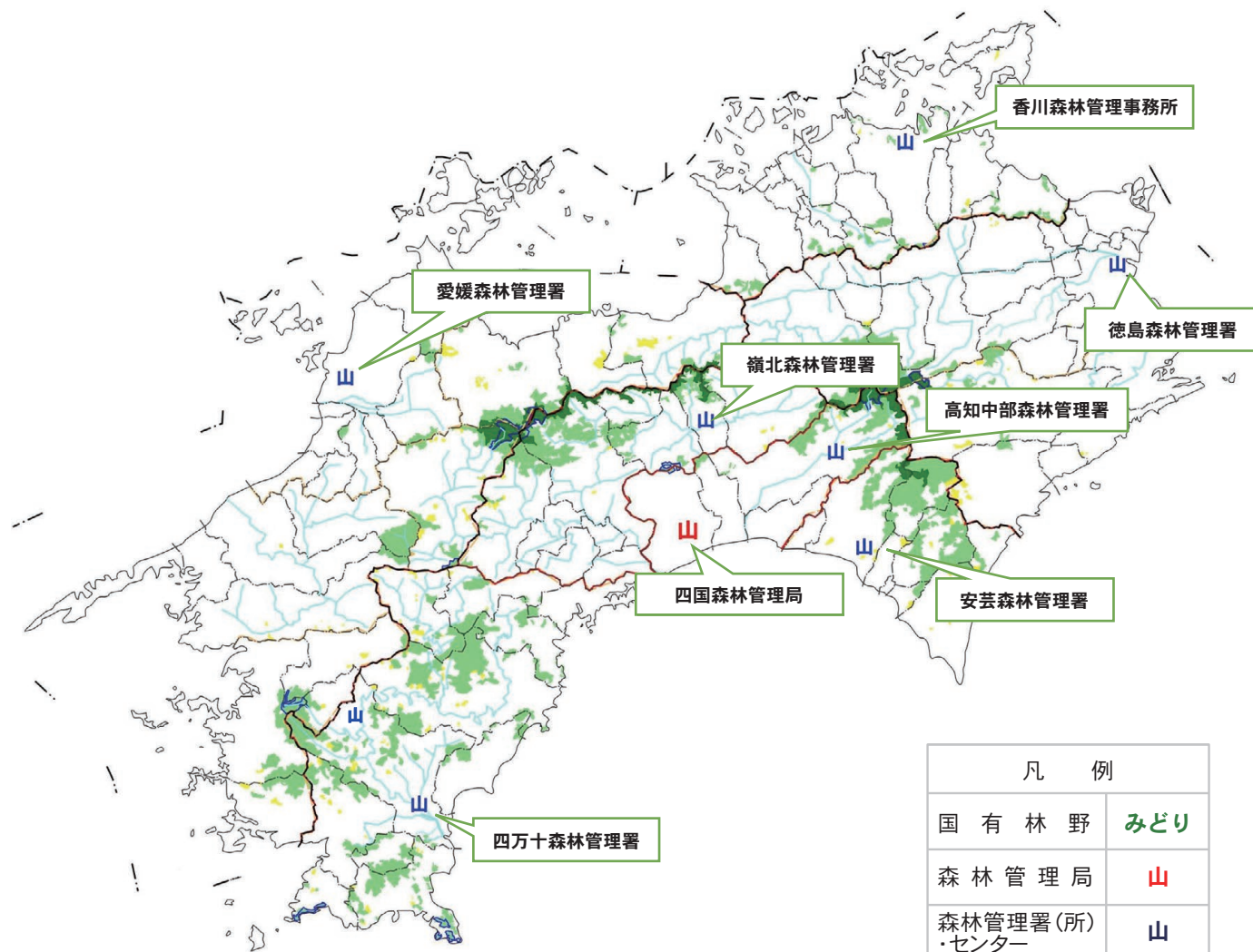
里見 昌記

- 平成7年4月 林野庁指導部造林保全課採用
- 令和6年4月 近畿中国森林管理局広島森林管理署長
- 令和8年4月 現職



四国森林管理局・署(所)

問い合わせ先



名 称	郵便番号	住 所	T E L
四国森林管理局	〒780-8528	高知県高知市丸ノ内 1-3-30	088-821-2210
徳島森林管理署	〒771-0117	徳島県徳島市川内町鶴島 239-1	088-637-1230
愛媛森林管理署	〒791-8023	愛媛県松山市朝美 2-6-32	089-924-0550
四万十森林管理署	〒787-0003	高知県四万十市中村丸の内 1707-34	0880-34-3155
嶺北森林管理署	〒781-3601	高知県長岡郡本山町本山 850	0887-76-2110
高知中部森林管理署	〒781-4401	高知県香美市物部町大柘 1539	0887-58-3131
安芸森林管理署	〒784-0044	高知県安芸市川北乙 1773-6	0887-34-3145
香川森林管理事務所	〒761-8064	香川県高松市上之町 2-8-26	087-866-6622